

[3] アルミニウム取引

LMEの乱高下をヘッジ

編集部

「ロンドン金属取引所（LME）でファンド筋が買い」「中国経済が今年も高成長」。こんな活字が新聞の紙面に躍ると、アルミ圧延業者、アルミ太郎は憂うつになります。ここ2、3年の出来事です。

ファンド、中国で価格が変動

アルミ太郎は、アルミニウムの地金を使って各種アルミ圧延品を作り、ユーザーに納めています。アルミニウムは電力高から日本の精錬メーカーが撤退、いまではほとんど全部が輸入品になっています。輸入品の価格は海外のメーカーと日本の輸入商社の間で四半期ごとにプレミアムが決められていますが、その基準になっているのが海外の先物相場、なかでもLME相場なのです。そのLME相場の様相が近年、変わってきました。ファンドと呼ばれる投機資金が流入、大きく動くようになってきたのです。

加えて、中国の台頭も大きな変動要因になりました。中国は経済規模が膨らむとともに、原材料の生産でも力を入れるようになってきましたが、アルミニウムも例外ではなく、いまでは、その生産・輸出状況で相場が大きく動くようになってきたのです。

2004年の初め、1トン20万円そこそこだった国内のアルミニウムの現物相場は4月には22万～23万円に上昇しました。もちろん、原材料高をそのままユーザーが受け入れてくれ

れば問題はありませんが、商売はそう甘くはありません。原材料が下がれば値引き要求はしてきても、上がったからといって「はい、そうですか」とはなかなかありません。

1月限を40枚買う

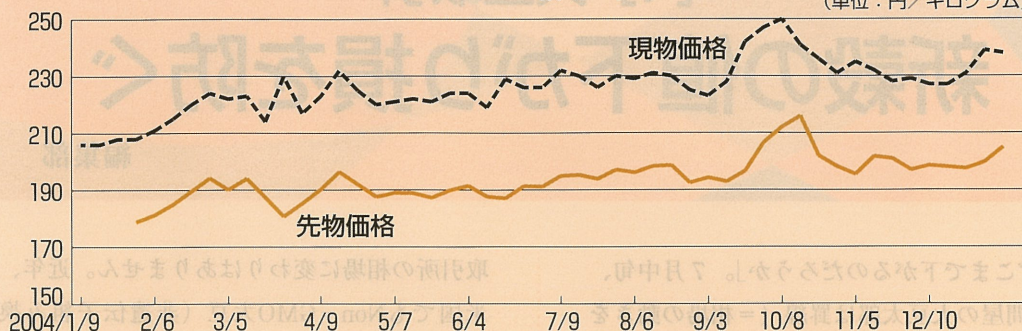
思い悩んだアルミ太郎の目が日本経済新聞に注がれました。そこにはアルミニウムの現物相場とともに先物相場も毎日、掲載されています。なんとなく、目を通すだけだったものに、ふと、気持ちが動きました。「価格高騰の対策にはならないだろうか」。そう考えたアルミ太郎は仲介に当たっている商品取引員会社に思い切って電話してみました。説明を聞くと「先物取引は資産運用だけではなく価格上昇のヘッジにも使える」とおぼろげながら分かってきました。

「思い切ってやってみるか」。アルミ太郎は取引単位が1枚5トンと小さい大阪商品取引所で売買してみることにしました。

6月、1月限（1月決済物）で40枚（200トン分）の買い注文を出しました。価格は1キログラム188円。つまり、1トンでは18万8,000円です。当時、現物価格は22万円でした。先物価格は将来の価格を見るので、先行き安くなると思えば現物価格より安くなり、高くなると思えば、現物価格より高くなります。また、受渡しなど各種条件の違いもあり、先物相場は現物相場より3万～4万円程度安い

アルミニウム相場の推移

(単位：円／キログラム)



(注) 先物価格は大阪商品取引所2005年1月限、現物価格は輸入物99.7%、いずれも週末値

こともあるのです。

それから、数カ月、恐れていたことが起こりました。原油価格が中国の需要増などをはやしたファンドの買いで暴騰、10月には1バレル50ドル台に乗りました。つれてアルミニウムにもファンドの買いが入って国際相場が急騰、国内現物価格も1トン24万円台に乗ってきたのです。

つれて先物価格も上昇、21万円台に乗ってきました。「少し手仕舞って(=買ったものを売ること)みるか」。アルミ太郎は考えました。といって、すぐ200トン使うわけではないので、使う分の100トン(20枚)だけ手仕舞いました。価格は1キログラム205円。

1キログラム当たり17円、1トンでは1万7,000円、100トンでは170万円の利益になりました(手数料は別)。もっとも、現物の仕入れ価格も1トン23万5,000円と1万5,000円上がっていたので、実質的には1トンで2,000円、100トンでは20万円の得にしかありません。しかし、仕入れ価格は実質的には値上がり前の22万円で購入したのとはほぼ同じことになりました。

その後、原油相場の下落に引きずられ、アルミニウムの先物相場も下がり、11月には1キログラム190円台に落ちました。「あのとき、

いま使わない100トン分を売っておけば170万円の利益が出たのに」。アルミ太郎はちょっと後悔しました。

再度の価格高騰にも対応

ところが、その後悔もまだ消えない12月、アルミニウム相場に再び火がつけました。LME相場が1トン1,900ドル台に急騰、つれて国内の先物相場も円高にもかかわらず1キログラム200円台に乗せ、205円まで達し、現物相場も1トン23万9,000円に達したのです。

「危なかった。もし、あのとき、全部売っていたら、今回の上げ相場では現物価格の上昇に打つ手はなかったな」。年が明けると、アルミニウム相場は再び下がりましたが、1月は、1年前より1割以上の高値を続けました。

「アルミニウムの現物を仕入れるときまで買った20枚を持っておこう」。アルミ太郎はそとつぶやきました。「アルミニウムの乱高下は当分収まりそうもない。でも、先物取引を行っていれば目先の上げ下げには一喜一憂しないで経営に専念できるわけだ」。今年の仕入れ量に見合った分を先物でヘッジしようと思いつつ……。